ときの至手箱

～博物館からのメッセージ～

第283回

取り合わせの妙 ～江戸時代の漆芸の一面～

漆芸品という言葉から連想されるのは、金銀を含む金属粉で文様を描いた蒔絵や貝殻を薄く削いで文様を表した螺鈿でしょうか。

いずれの技法も漆芸の代表的なもので、その歴史は古く、日本で用いられるようになったのは、奈良時代にまで遡ります。以後、蒔絵と螺鈿の技術は、洗練されていき、特に蒔絵による表現のバリエーションは、大きく花開いていきます。

奈良時代から平安時代初めにかけて制作された、最初期の蒔絵作品は、黒漆地に金銀粉でシンプルな文様を描いたものが多く、一見すると地味な印象を受けます。それが平安時代の中頃になると、文様が複雑化し、作品全体にあしらわれていきます。

平安時代後期を経て、鎌倉時代に入ると、作品の表面全てに金銀粉を蒔き詰めた沃懸地や梨地が盛んになる一方、文様部分を盛り上げて立体的に表す高蒔絵が登場します。

時には、蒔絵と併用して薄く熨した金属板を嵌めたり、貼り付けて文様を表す平文（平脱）や、螺鈿などが取り入れられ、蒔絵の表現は実に多彩なものになりました。

これらの表現方法は、室町時代までにほぼ完成したといわれます。では、完成された蒔絵は、その後、どのように展開していったのでしょう。

ここで、江戸時代に制作された一つの硯箱を紹介します（写真）。

硯箱の作者は、江戸時代中期に活躍した小川破笠（1663～1747）です。破笠は若い頃に松尾芭蕉の門人となり、俳諧を嗜んだ人物としても知られています。破笠の銘が残る漆芸品は、享保年間（1716～36）以降に確認されることから、破笠は50代後半に漆芸の道に入ったと考えられています。

破笠が手がけた漆芸品の大きな特徴は、金属粉による蒔絵や螺鈿に、従来の漆芸品には用いられない陶板やガラス、石などの素材を寄せて表現する点です。

この硯箱にもその特徴がよく表れています。蓋表には、金属粉を蒔き詰めた埋木材の上に、一頭の盛装した象が銀粉の高蒔絵で立体的に描かれています。その背に載る敷布と舟形の乗り物には、艶やかな陶片が嵌められ、装身具には螺鈿、目には水晶を嵌入するなど、蒔絵と異素材の取り合わせが確認できます。

漆芸の歴史の中で、江戸時代中期以降は、それまでに生まれた蒔絵の表現を応用し、非常に精緻な文様や写実性を追求した作品が制作される傾向にありました。中には、カラクリを仕掛けるような奇をてらったものも見られます。

破笠が得意とした蒔絵と異素材の融合も、旧来の技法を基調としているため、江戸時代中期以降における漆芸の特色として位置づけられています。しかし、既に完成された蒔絵に新たな素材を取り合わせて、さらなる表現方法を展開させた点において、破笠は他の漆芸師とは一線を画す存在と言えるでしょう。

【彦根城博物館学芸員　古幡昇子】

▶埋木象文嵌入硯箱　小川破笠作

写真の作品は、テーマ展「漆芸の精華―江戸時代を中心に―」で3月7日(土)から4月7日(火)まで展示しています（期間中無休）。

博物館だより

彦根城博物館☎22-6100・FAX22-6520
http://hikone-castle-museum.jp/

開館時間　8：30～17：00（入館は 16：30 まで）

特別公開

3月3日(火)まで

「雛と雛道具」

井伊家 13 代直弼の愛娘弥千代（やちよ）（1846 ～ 1927）の雛と大揃いの雛道具を、地元の旧家に伝来した古今雛や御殿飾りなどとともに一挙公開。春の訪れを告げる恒例の展示です。

テーマ展

3月7日(土)～4月7日(火)

「漆芸の精華 －江戸時代を中心に－」

漆を用いた装飾方法は、蒔絵（まきえ）や螺鈿（らでん）、彫漆（ちょうしつ）など極めて多彩で、特に江戸時代にはその技法が多様に展開しました。本展では漆で彩られた、調度、楽器、刀装、馬具など、多岐にわたる漆芸品を井伊家伝来品から紹介します。

▲我宿蒔絵硯箱

▶ギャラリートーク
3月7日(土)　11：00～11：30、14：00～14：30
事前申込：不要　場所：展示室1　※観覧料が必要

講座

講座　私の研究最前線

「彦根藩の武具制作とメンテナンス事情」

彦根城博物館の学芸員が、各自の研究テーマについて、日頃の研究の成果を踏まえて解説します。

「足軽の武具」
日時　3 月 21 日(土) 14：00 ～ 15：30
講師　北野 智也
会場　当館講堂　　**定員**　60 人
資料代　100 円（中学生以下無料）
※申込は当日受付（先着順）です。

▲御武具御修復仮留

■【休館日のお知らせ】3月4日(水)
■ 3月5日(木)・同6日(金)は、展示替えのため一部休室します。

チケット情報

ひこね市文化プラザ

3 月 29 日(日) 14：00　エコーホール

第22回彦根エコーオーケストラ定期演奏会

自由【発売中】 一般　3,000円　大学生以下　1,500円
※未就学児の入場はご遠慮ください。
※親子室のご利用ができます。

4 月 4 日(土) 11：00　グランドホール

春休み!よしもとお笑いライブinひこね2020

指定【発売中】 前売　4,800円　当日　5,300円
※5歳児以上有料。4歳児以下膝上のみ無料。

4月5日(日) 14：00　エコーホール

オペラ物知り講座 inひこねVol.13 椿姫

自由【発売中】
前売　2,800円
当日　2,990円
ペアチケット　5,000円
（数に限りがあります）

申込・お問い合わせ先　チケットセンター
☎27-5200　(9:00～19:00)
チケットはインターネットでも購入いただけます。https://bunpla.jp/

3月の休館日　2日(月)、9日(月)、16日(月)、23日(月)、30日(月)

6月14日(日) 14：30　メッセホール

ひこね市民大学特別講座
心をほぐすストレッチ・やわらかく生きてみませんか

自由【3月3日(火)より配布開始】
入場無料（要入場整理券）

「それいけ!アンパンマン」の「バタコさん」役や、映画「魔女の宅急便」の「黒猫ジジ」役を務めた実力派声優・佐久間レイによる講演や、佐田詠夢を伴奏に迎えコンサートや手遊び・朗読劇をお届けします。

佐久間レイ

佐田詠夢

みずほ文化センター

3月20日（金・祝）14：00　練習室

彦根亭 みずほ寄席vol.35
仲春の亭（笑）

自由【発売中】
前売　500円
当日　600円
小学生以上
託児あり（有料・要予約）

出演：笑福亭飛梅、笑福亭鉄瓶、ウッドランド・コンチェルト

笑福亭鉄瓶

申込・お問い合わせ先　みずほ文化センター
☎43-8111 (9:00～17:00)

3月の休館日　3日(火)、10日(火)、17日(火)、21日(土)、24日(火)、31日(火)

【ひこね市文化プラザ各公演 発売初日の予約の取り扱い】
※電話予約・インターネット予約のみの受付となります。
※窓口でのチケット引き取り・販売は翌開館日から承ります。

◎表記の価格は全て税込価格です。
◎入場制限のある公演は、託児サービスを実施します。
子ども1人1,000円。各ホールまで事前予約が必要です。